

# 訪日客道内受け入れ限界

## 政府新戦略

## 交通・宿泊 整備急務

政府が訪日外国人観光客を5年間で2倍の4千万人、15年間で3倍の6千万人に増やす野心的な新目標を掲げた。ビザ発給要件などの規制緩和方針も打ち出しており、北海道を訪れる客はさらに増える可能性がある。ただ、

訪日客数は為替や海外景気の動向に左右される。順調に増えたとしても、ホテルが足りなくなるかも知れない。受け入れ態勢を早く整える必要がある。

(東京報道 河相宏史、経済部 佐々木馨斗)

II 1面参照

新目標を盛り込んだ観光戦略の肝は、首都圏などに集中する訪日客を地方に行き渡らせることにある。「地方」の中でも特に重視されているのが北海道だ。道によると、2014年度に北海道を訪れた外国人

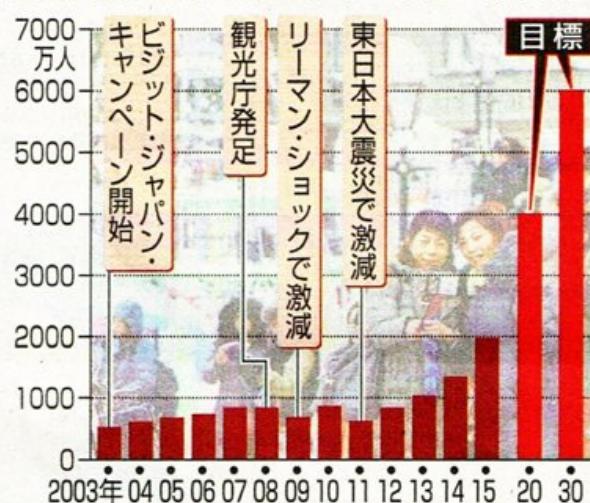
客は154万人。政府の新目標と同じペースで増えれば、「20年をめどに道内へ300万人」という高橋はるみ知事の公約も実現が近づきそうだ。

ただ、外国人客が増えてきたが、外国人客と周辺住民とのトラブルを懸念する声もあり、

札幌圏のホテルはすでに足りず、客を運ぶ観光バスにも余裕がない」(道内の旅行会社)。政府は住宅を宿泊施設として使う「民泊」を推し進めている。だが外国人客を育てなければ

「簡単にはいかない」(札幌市内のホテル)のが実情だ。

訪日外国人旅行者数の推移と目標※観光庁調べ



訪日客が増えた背景には、中国人へのビザ発給要件緩和があるが、外国人が日本の買い物で有利になる円安が寄与した面も大きい。

逆に円高になれば、訪日客が減る要因となりうる。

そもそも、訪日客は12年まで1千万人未満で推移していた。リーマン・ショックによる世界経済の減退で前年より減ったこともあり、最近の急増は異常事態であり、長くは続かないといふ指摘する観光関係者もいる。

道内観光に詳しい共栄大(埼玉県)の鈴木勝客員教授は「経済的に余裕のある個人訪日客を増やすには公共交通網が欠かせないが、北海道は鉄道網がまばらで移動しづらい。これが弱点になる」と指摘する。